令和５年度　南アルプス市立若草南小学校　前期自己評価書

南アルプス市立若草南小学校
校　長　　小林　正彦

・・

令和５年度　小中一貫校　若草南小学校経営方針

Ⅰ　若草地区小中一貫校教育目標

「よく学び　心豊かでたくましい児童生徒の育成」

目指す児童生徒像
自ら学び、深く考える児童生徒（知育）
心豊かで　思いやりのある児童生徒（徳育）
健康でたくましい児童生徒（体育）
意欲をもち　最後までやり抜く児童生徒（意欲）

Ⅱ　学校教育目標

「学びを深め　心豊かな　たくましい子ども」

具体目標　自ら学び　深く考える子ども　（知）
豊かな心で　思いやりのある子ども　（徳）
体をきたえ　最後までやりぬく子ども　（体）

目指す学校像	育てたい児童像
➢ 笑顔あふれる学校 ➢ 学び合い 高め合い　信頼し合う 地域と共にある学校	➢ 人の痛みがわかる思いやりのある児童 ➢ 自分の考えをもち、チャレンジする児童 ➢ 若南プライドをもち、ふるさとを愛する児童

若南プライド：地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で　地域に誇りを持ち、自尊心を高める、積極的な活動に取り組む精神・自他の尊重・多様性を認め合う精神

Ⅲ　学校経営方針

１　児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。
２「自ら学び　深く考える子ども」の育成を図る。
３「豊かな心で　思いやりのある子ども」の育成を図る。
４「体をきたえ　最後までやりぬく子ども」の育成を図る。
５　特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室）の充実に努める。
６　児童の安全・安心を守り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

Ⅳ　具体的な取組

１　児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。

（１）新学習指導要領の理念をふまえた若草地区小中３校の９年間を見通した教育課程の編成
（２）幼稚園・保育園・若草小学校・若草中学校との連携を考えた教育課程の編成
◆中学生や園児との交流推進　◆情報交換会の充実　◆児童会・生徒会活動の交流会の実施
（３）各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事を含めた特別活動など横のつながりと異学年間の縦のつ

ながりを考えた効果的な教育課程の編成

（４）全教育活動を通した体系的なキャリア教育の推進

◆栽培活動　◆地域探検や施設見学　◆福祉体験　◆二分の一成人式　◆キャリアパスポートの活用

（５）学校内外の教育資源の活用と体験学習の充実

◆地域教材・人材の活用　◆体験的活動（地域学習を含）

２　「自ら学び　深く考える子ども」の育成を図る。

（１）学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくり

◆反復繰り返し学習　◆市単講師によるＴＴや少人数指導

（２）学習スタンダードに基づいた授業づくり

◆若南学習スタンダード（学習モデル・学習プロセス・学習ルール）の定着化

◆問題解決的な学習展開、見通しと「対話」のある授業づくり

（３）ＳＤＧｓの視点を取り入れた学習活動

◆自然環境、資源、貧困など地域、世界の諸活動について自らの課題として考える学習活動

◆若草地区３校の児童会・生徒会との協同活動の実施

（４）思考力・判断力・表現力を高めるためのコミュニケーション能力の伸展

◆ＩＣＴ利活用　◆単元末評価問題の活用　◆協働的学習体制の充実　◆外国語教育の充実

（５）組織的・計画的・継続的な校内研究の充実

◆学級づくりと授業実践を中心とした校内研究の推進　◆一校一実践・一人一実践の取組

（６）家庭学習の習慣化とアウトメディアの取組

◆家庭学習の手引きの活用　◆家庭学習取組強化週間　◆主体的に取り組む学びノートの活用

◆長期休業中のアウトメディアの取組◆SNS、オンラインゲームについての防犯講話実施

３　「豊かな心で　思いやりのある子ども」の育成を図る。

（１）自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進

◆人権尊重の理念に基づく教育活動

◆話の聞き方　みとめ合い名人㋐イコンタクト㋑いね㋒なずき㋓がおオッケー

あいづち名人㋐あなるほど㋑いねそれ㋒んうんわかるよへ㋓ーそうなんだ㋔ーすごい

◆場に応じた丁寧な言葉遣い

（２）全ての子の居場所のある居心地のよい学級経営の充実

◆所属感、自己有用感、自己肯定感を持たせる取組の工夫 ◆スリンプルプログラムの実施

◆Ｑ－Ｕの活用◆学校生活アンケートの活用　◆ＳＯＳの出し方に関する教育の実践

（３）学校教育全体を通した道徳教育の充実

◆考え、議論する道徳の推進

（４）児童会を中心とした仲間づくり・集団づくり

◆あいさつ運動　◆縦割り班活動　◆ボランティア活動

（５）読書活動・音楽活動の推進

◆朝読書の効果的実施　◆図書集会の活用　◆読み聞かせの取組　◆歌声タイム　◆音楽会

（６）集団生活のルールやマナーの徹底

◆月ごとの生活目標　◆あいさつ運動　◆無言清掃　◆全校集会や全校放送の活用

◆若南プライド「心のやりとりきちんと**あいさつ**・心を向ける**返事**・心をそろえる**くつそろえ**」

４　「体をきたえ　最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

（１）運動の日常化による基礎体力づくり

◆体育的行事の計画的実施　◆「健康・体力づくり一校一実践運動」の取組

（２）粘り強く最後までやり抜く意思を育てる指導支援

◆体育授業の充実　◆粘り強さを大切にした学習指導の充実

（３）基本的な生活習慣の確立と保健指導の充実、給食指導を中心に食育の充実

◆たよりや掲示物、学級指導、保健集会の活用　◆給食週間の取組

５　特別支援教育の充実に努める。

（１）児童の実態に応じた特別支援学級の運営

（２）特別支援教育の視点を取り入れた学級経営

◆特別支援学習会の実施　◆ユニバーサルデザインの活用

（３）交流学級・在籍学級の担任、保護者･関係諸機関との連携を活かした指導支援の充実

◆機能的なケース会議開催　◆外部の専門機関や関連行政機関との連携

◆「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用

（４）サポートルームわかくさのセンター的機能の充実

◆校内外のニーズをもつ児童のアセスメント　◆教育相談

６　児童の安全・安心を守り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

（１）小中一貫校の取組推進

◆若草地区小中３校との連携・交流 ◆地域人材の活用　◆地域行事への参加・地域貢献

（２）全教職員が「一致協力」、連携・協働し支え合う教職員組織「チーム若南」

（３）自らの命は、自ら守る「危険回避能力」の育成

◆地震・火災想定の避難訓練 ◆不審者対応訓練 ◆救命救急法訓練 ◆引き渡し訓練 ◆交通安全教室 自転車教室の実施　◆起震車・煙体験の実施　◆防犯講話　◆危機管理マニュアルの充実と改善

（４）感染症対策を含めた、自己の健康安全に関する保健指導の徹底

（５）学校評価や保護者アンケートを活かしたＰＤＣＡサイクルによる学校運営、教育方針の改善

◆自己評価・学校関係者評価の実施　◆児童・保護者アンケートの実施

◆行事ごとの教職員や保護者アンケートと総括の実施

（６）授業参観、各種たより、ＨＰ、安心メールによる情報発信

◆学校開放日、授業参観、学校行事への参加等教育内容の積極的公開

◆学校通信・学年通信・学級通信・保健だより・図書だより・給食だより等の発行

◆ＨＰでの情報発信や安心メールを使った緊急連絡の活用

（７）学校評議員制度の効果的活用とＰＴＡや地域との連携協力

◆地域ボランティアの活用　◆学校評議員会の開催　◆ＰＴＡ専門部の活動

令和５年度　学校評価の実施について

【ねらい】

　学校が、自らの教育活動その他の学校運営について目標を設定し、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、学校として組織的・継続的に改善を行うことができる。また、結果を公表することによって、保護者・地域住民と情報や課題を共有し改善を進めていくことができる。（開かれた学校づくり、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり）教師にとっては自分自身の教育活動を振り返り、改善をしていくひとつのきっかけになる。

【日程】

昨年度までは、１学期末に教職員及び児童へのアンケート、２学期末に教職員及び児童への２回目のアンケートと保護者へのアンケートを行っていた。 令和５年度より、市教委と協議し、１年間を見通した教育活動の改善を図ることができるよう、児童及び保護者のアンケートを２学期末の１回とした。

〇アンケートについては、教職員、保護者、児童とも GoogleForms を利用する。
〇第１回職員アンケート
　・７月３日（月）～７月１４日（金）に実施する。
〇アンケート結果の比較・考察（第１回自己評価　夏休み中）
〇第２回学校評議員会（学校関係者評価委員会）
　・９月５日（火）午後５時３０分～
　　①１学期学校評価についての考察
　　②重点課題の絞り込みと取組方法
〇保護者アンケート
　・１２月　１日（金）アンケート依頼の配付
　・１２月１１日（月）回答しめきり
〇児童アンケート、第２回職員アンケート
　・１２月　１日（金）～１１日（月）に実施
〇アンケート結果の比較・考察（第２回自己評価）
　・１２月１０日（火）～１月　９日（火）
〇第４回学校評議員会への諮問（学校関係者評価委員会）
　・１月２３日（火）
〇保護者への報告
　・３月　１日（金）　ホームページ上で公開
〇南アルプス市教育委員会へ提出
　・　　月　　日（　）まで

【　評価方法　】

教職員に対して WEB 上のアンケート機能（Google Forms）により回答を得た。質問に対しての回答選択肢は、基本的に４段階になっている。

Ａ：とても・よく～している
Ｂ：だいたい～している
Ｃ：あまり～していない
Ｄ：～していない
（Ｅ：対象外）

このうちＡとＢは肯定的なプラス評価であり、ＣとＤは否定的なマイナス評価として捉える。ＡとＢのどちらを選ぶかＣとＤのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄを厳密に区別して集計することよりもＡ・Ｂ合わせてのプラス傾向Ｃ・Ｄ合わせてのマイナス傾向として集計する方が全体的な傾向をつかみやすくなる。

そこで Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの選択肢を点数化し Ａ＝４ Ｂ＝３ Ｃ＝２ Ｄ＝１として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。

〇全体にプラス評価（Ａ・Ｂ）が多ければ、平均点は２．５以上になり、４点に近づいていく。
〇全体にマイナス評価（Ｃ・Ｄ）が多ければ、平均点は２．５未満になり、１点に近づいていく。

なお、自己評価まとめの表には、比較として昨年度の１学期の平均点数を載せてある。ただし、「課題・意見」として、Ｃ及びＤ評価をつけた場合に具体的な内容を書いてもらうこととした。

また、回答できない項目については、Ｅ：対象外　を設けているが、これについては点数には含めないものとする。今後、保護者のアンケートにも回答の選択肢として　Ｅ：わからない を設けるが、これも点数には含めない。

第１回職員アンケートの考察

【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占めた。平均点数は、全項目で３．２を上回り、学校長の指導のもと、学校教育目標達成のために全職員が努めていることがわかる。

しかし、一つ一つの項目に目を向けると、明らかな有意性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目や、プラス評価ではあるがポイントが相対的に低くなっている項目も見られる。

肯定的な回答が多い項目は、本校の強みとして、継続して取り組んでいくとともに、改善する必要のある項目については具体的な方策を立てて取り組んでいきたい。

【強みとなっている項目（平均点数が３．７以上)】

①子どもたちが、楽しく学校生活を送れるよう努めている
②すすんであいさつをする指導の充実に努めている
⑥児童理解に努め、不登校・問題行動等への予防に努めている
⑮保護者からの各種相談について、誠実に対応している

【弱みとなっている項目（平均点数が３．３以下)】

⑤家庭学習を定着させるために工夫している
⑧校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある
⑬緊急時の対応(防災・防犯)について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている

１　学校生活について

「子どもたちが、楽しく学校生活を送れるように努めている」については、肯定的回答が１００％であった。子どもたちが、学校は楽しいと思い、通学することは学校・保護者・地域の共通の願いである。学校生活アンケートやＱＵテストなどでマイナス傾向の児童にしっかりと目を向けるよう努めていく。

「すすんであいさつをする指導の充実」については、教職員の意識を高め、人間関係の形成を図れるように「あいさつ＋一声」を実践していきたい。教職員・児童会本部等が率先してあいさつして、「気持ちの良いあいさつ」が「誰とでもできる」児童の育成に取り組んでいく。また、２学期に行う児童へのアンケート結果と比較検討をしながら、効果的な指導方法の検討を行っていく。

２　学習指導について

「子どもに基礎的な学力が身に付く指導」「児童を授業に集中させるための指導」とも、Ａ評価の割合が 48％と低くなっているが、教職員が高い意識を持ち、授業改善に努めていることの表れであるととらえることができる。

わかりやすい授業の展開と児童の学力向上は、学校に課せられた最も大切な課題の一つである。タブレット端末の利用が児童の意欲向上につながっていることも検証しながら、進めていきたい。基礎基本の定着に向けて、一人ひとりの習熟の度合いに対応しながら支援体制も考え、個別対応にも力を入れていく。

３　家庭学習について

「家庭学習を定着させるための工夫」では、Ａ評価が 35％であり、マイナス評価はなかった。家庭学習強化週間の取り組み、学級・学年だより等で、学びノートや家庭学習見守り週間のことを取り上げ、保護者へ周知することも行っていた。児童の意欲の向上、より良い学習につながっていくと思われる。

家庭学習は、保護者の協力が必要不可欠である。全校での取り組みや学年・学級での取り組みをさらに進め、家庭学習の定着を図り、さらに進めていきたい。

４　生徒指導について

一人一人が自己肯定感、自己有用感を感じられる居心地の良い学級づくりが、楽しい学校生活の基盤となり、学習活動を支える基盤となる。

「児童理解に努め、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている」については、Ａ評価が 66％と７割近かった。様々な児童がいる中でお互いの良いところを認め合う活動を仕組み、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりを目指していることがうかがえる。

生徒指導上、様々な諸課題があり、その都度、校長を中心とし組織的に対応していくことを徹底していく。また、保護者と連携を図って取り組むことが不可欠である。不登校やいじめ等につながる兆候の早期発見と早期対応に努めるとともに、これからも、報告・連絡・相談を密に行い、管理職・生指担当・養護教諭・コーディネーター等を中心とし、組織的に対応していきたい。

５　学校運営について

Ａ評価が 25％、平均得点が 3.2 と一番低い項目であった。校務分掌によって、仕事内容に軽重があり、個人的に負担があったという課題が指摘された。教職員が与えられた分掌を責任もって進めている様子がうかがえるが、適切な分掌となるには、教科担任制も踏まえる必要がある。また効率的な会議の運営、報告・連絡・相談の連携が取れる体制を、ＩＣＴの活用を図りながらさらに整えていきたい。

６　学校行事について

肯定的評価が100%であった。多くの行事について、コロナ禍の経験を生かしながら、むやみに削減することなく、常にPDCAサイクルを意識し、評価・反省を行いながらバランスのある教育活動を目指していきたい。

行事にかかわらず、様々な場面における児童指導も、保護者・地域に発信し理解してもらうことも順調に進めることができたと思う。今後も目的をしっかりと見据え、児童の安心安全を第一に考え、職員間での共通理解を図りながら無理のない計画の中で取り組んでいきたい。

７　校内研究、特別支援教育について

「特別支援教育に対する校内支援体制が機能している」は、Ｃ評価が10%と否定的意見の割合が一番高くなっている。

特別な配慮が必要な児童が多く、個々に関わる時間が多くなり担任の負担が大きく、人を配置してほしいという指摘がある。交流学級、支援学級、養護教諭、教務の教職員が連携していく必要があった。

校内研究では、ICT 教育を進めながら、児童に身に付けさせたい力を伸ばしていくことが私たち教師に課せられた大きな課題である。

校内研究会は、内容も工夫され、学び合う雰囲気がよく、勉強になる。２学期以降も、研究主任を中心に、授業研究を含めて研究を進めていきたい。

８　施設・設備・安全管理について

「緊急時の対応(防災･防犯)について共通理解が図られ､計画的に訓練が行われている」のＡ評価が 38%と低かったが、１学期の避難訓練が２回とも雨天のため、避難行動ができなかったことが表れていると思われる。

今後､引き渡し訓練は､来年度に向けて若草地区３校合同で行う計画を進めていきたい。

定期的な訓練や安全教育を通し、日頃から防犯・防災の意識を高める児童指導にあたりたい。また、保護者や地域住民の協力も欠かせない。通学路については、地域・見守り隊の方々の献身的な働きかけで、改善が図られている。今後も見守りたすきの普及や小中連携なども含めて、地域で児童を見守る学校づくりを進めていく。

９　学校と家庭との連携について

「保護者からの各種相談について、誠実に対応している」については、Ａ評価が 78%、平均点も 3.8 と高かった。学校と保護者が共通理解を図っていることがうかがえる。今後も同じ歩調で進むことが望まれる。ＰＴＡ総会や学年部会等も参集して行ったが、混乱もなく実施できた。その背景には、保護者と教職員の連絡・連携が密に行われ、信頼関係を築いていることと思われる。４月から５月にかけて、授業参観や家庭訪問が実施できたことも、学校と児童と保護者をつなぐ機会としてとても良かったと思う。

また、地区懇談会や運動会の実施方法について、検討を進めていく必要がある。